

I 令和8年度 東京都立五日市高等学校定時制課程 学校経営計画

令和8年4月1日

校長 松崎 真理子

1 スクール・ミッション

「愛情」「良識」「勤勉」を教育目標に掲げ、地域と連携して生徒の能力を伸ばしながら、社会で必要とされる力を着実に身に付ける教育活動を推進します。伝統を尊重しながらも未来を創造するために果敢に挑戦する人材を育成するとともに、地域の期待に応え地域と共に地域に貢献する人材を育成します。

【教育目標】

「愛情」 つねに温かな心を持ち、人間関係を大切に人を育てる。

「良識」 視野の広い知識に基づく、適切な判断力をもつ人を育てる。

「勤勉」 心身ともに健康で、勤労に喜びをもつ人を育てる。

2 目指す学校

- ◇地域貢献 地域と連携しながら、地域の期待に応え地域に貢献する人材を育成する学校
- ◇能力伸長 生徒が生き生きと活動するとともに生徒の能力を伸ばすことができる学校
- ◇人格形成 人権を尊重し全ての教育活動を通じ知・徳・体の調和の取れた人間を育成する学校
- ◇未来創造 伝統を尊重しながらも未来を創造するために果敢に挑戦する人材を育成する学校

3 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 新たな教育のスタイルの確立に向けた教育活動の推進

- ① 令和7年3月に策定された「東京都教育施策大綱」に基づき、「新たな教育のスタイル」の確立に向け、デジタル教材や都立版生成AIを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。
- ② 校内内別室推進事業実施校として不登校等の生徒に対し、外部人材やデジタル機器等を活用した学習環境により、きめ細かな支援体制を構築する。
- ③ DXハイスクール（文部科学省高等学校DX加速化推進事業実施校）として、一人一人の興味関心に応じた新しい学びを開発して、AI等を活用するなど、教科横断型の探究的な学びを実践する。

(2) 地域社会に貢献し、実社会で活躍できる人材の育成

- ① 「五日市メソッド」の実践により、地域の関係諸機関や地域企業等と連携を密にし、時代の変化に適切に対応できる力を育むため、探究活動などの経験的な学びを通じて、地域に貢献できる人材を育成する。
- ② 地域の特性を活かした教育課程の実施により社会に開かれた教育課程を実現することで、希望する進路を明確に持ち、その実現に向けて努力することができる生徒を育成する。
- ③ 総合的な探究の時間や進路活動等、教育活動全般で求められる言語活用能力の向上の視点を取り入れた教育活動を推進する。

(3) 生徒及び保護者が満足できる学校づくりを推進

- ① 落ち着いた学校生活ができるよう、礼儀と規律を尊重する態度を育成し、心身の健康増進を図るとともにコミュニケーション能力を育成し、人間関係を形成するスキルを身につける。
- ② 丁寧な学習指導や進路指導を行い、個別の支援を充実させ中途退学者の減少を図るとともに、生徒及び保護者が満足できる学校づくりを推進する。
- ③ 4年間の進路指導計画に基づいたキャリア教育を実施することで、生徒の能力・適性、興味・関心等

に応じた適切な進路実現を図る。観点別学習状況の評価により多面的な評価の定着を図る。

(4) 安全・安心な居場所づくり

- ① 自立支援チーム継続派遣校として、Y S Wを活用した生徒の自立支援や就労支援を通じて、生徒の不登校対応や中途退学の未然防止について更なる徹底を図る。
- ② 生徒相談兼特別支援教育委員会を中心に各学年・教科及びS CやY S Wが連携した生徒自立支援の校内体制の構築を図る。
- ③ 改訂版生徒指導提要进行を踏まえ、生活指導指針に基づく日常的・継続的な指導により、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を図る。

(5) 職場の環境改善と働き方改革の推進

- ① 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラムの策定」を踏まえ、民間企業との協働や外部人材の活用、デジタル化等の取組を推進することと併せ、様々な校務を組織的、計画的に取り組むこととし、教職員の効率的でミスのない確実な職務遂行能力を育成する。
- ② 「校内環境改善P T」を中心に、「五高働き方改革プラン」を策定し、業務のアウトソーシングや在校時間の見える化を図るなど、教職員の心身の健康の保持増進に繋がるよう働き方改革を推進する。
- ③ 同僚性を育み、対話を重視し、相互に支えあうことが出来る職場づくりを目指す。

(6) 組織的な学校経営

- ① 全身体制による広報活動と組織的・計画的な募集対策の工夫及び充実を図る。
- ② 各分掌・学年・教科の一層の連携強化を図り、組織的で円滑な教育事務の執行と運用を行う。
- ③ 教育課程、三修制、入選業務などの、適正な運用・改善・効率化を図る。

(7) 災害の発生に備えた防災教育の推進及び感染症への対応

- ① 生徒が災害時に適切な判断を施し、主体的に行動することができ、自助・共助・公助を遂行することができるよう防災教育を推進する、
- ② 職員参集訓練を実施し、その際に地域の消防署や外部の関係団体等とも連携し、災害時に備えて組織的、計画的な防災教育を推進する。
- ③ 様々な災害を想定して、近隣地域と協働した避難訓練や研修を行う。①外部専門機関等と連携し、災害時に備えて防災教育を引き続き推進する。

4 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 地域と連携した活動を取り入れるなど、総合的な探究の時間を通して、生徒が主体的に探究力や社会力を身に付けられる取組を推進する。
- ② 生徒の実態を踏まえ、一人一台端末を活用して、分かる授業を展開し基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 観点別学習状況の評価の趣旨を踏まえ、授業のねらいを明確にし、振り返る場面を設定して評価を行うなど、観点別学習状況の評価を確実に実施し、授業力の向上を図る。
- ④ 全教員がチャイムで授業を開始するなど授業規律を確立し、生徒が集中して学びに向かう環境を整える。
- ⑤ 生徒による授業評価を活用した情報共有と全定合同の相互授業参観・研究授業や研究協議により、授業力の向上を図る。
- ⑥ 実験・実習の実施など生徒の興味・関心を高める体験的学習の実践により生徒の主体的な学習活動の充実を図る。

イ 生活指導

- ①生徒が安心して学校に通い、積極的に学習に取り組める安全な学習環境を整え、中途退学者を減らす。
- ②担任・保護者との連携を密にすることで、欠席・遅刻・早退等きめ細かい指導を実施する。
- ③体力テストや安全指導など心身の健康増進に向けた組織的・計画的な取組を実施する。
- ④毎日の校門・昇降口指導による挨拶や授業の開始時と終業時における挨拶指導を励行する。
- ⑤定期的に校内外の巡回指導を行い、いじめをはじめとする問題行動の予防・未然防止に努める。
- ⑥各顧問の創意・工夫ある指導のもとで、生徒の自主的・自発的な参加による部活動や学校行事の活性化を図る。
- ⑦避難訓練をはじめとした防災教育やセーフティ教室等の安全教育を充実させ、安全・安心な学校づくりを引き続き行う。
- ⑧不登校や自殺防止に向けてSCやYSWと情報共有を行うとともに、家庭との連携を図り、SOSの出し方に関する指導を実践する。

ウ 進路指導

- ①職業や社会の現実に対する理解を深め、自らの能力、適性に合った生き方、働き方を考えながら社会的・職業的自立に必要な能力や態度を養い、ミスマッチのない進路実現を図る。進路希望に応じたキャリア教育の推進と、地域との連携等により、生徒の進路への意識を高める。
- ②専門性の高い外部講師を活用した都立高校生のための社会的・職業的自立支援教育プログラム事業など、実践的なキャリア教育を行い、職業や社会の現実に対する理解を深める。
- ③内外でのさまざまな体験活動を通して、自分の存在が社会の一員として認められているという自覚を持たせ、自尊感情や自己有用感を育む。
- ④自己分析を目的としたキャリア教育や進路適性検査を通して自己の能力や適性に対する理解を深め、社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を自覚させ、その獲得に向けた努力を促す。
- ⑤本校で身に付けてほしい資質・能力（各学年の重点目標）に基づく4年間を見通した進路指導計画を策定し、進路希望に応じた進路ガイダンスの実施やインターンシップによる進路指導の充実を図る。
- ⑥グループエンカウンターの実施によりソーシャルスキルの向上を図り、社会人となる意識を向上させる。
- ⑦自立支援チームを中心に高校生の社会的自立を目指す進路支援事業を活用し、進路意識の向上を図る。

エ 特別活動

- ①地域に開かれた学校づくりとして、「ヨルイチ」などの地域行事や地域清掃活動への参加、和太鼓での交流及び天文台を活用した観望会など、自治体、小・中学校、関係機関等と協働した取組を行う。
- ②生徒が自主的・主体的に活動できるよう、部活動や学校行事の活性化を図るとともに、部活動入部率・参加率をあげる。
- ③文化祭等の学校行事や委員会活動において、生徒の自主的、主体的な活動の充実を図る。
- ④学校行事や地域と協働した取組等により、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。
- ⑤地域と協働した取組により、地域の方に本校の活動を知ってもらえる機会を増やす。
- ⑥外部専門機関と連携して、社会人として必要な意識の向上を図るなど主権者教育を推進する。
- ⑦総合的な探究の時間、教科指導、行事等における図書館の活用と読書習慣の確立を推進する。

オ 健康づくり

- ①生徒自らが体力を高めていく習慣を身につけ、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育む。デジタル技術を活用した体力テストの結果の分析を行い、生徒が自身の体力向上に向け、積極的に取り組むことが出来るよう、組織的・計画的な取組を推進する。

- ②都立高校生が将来を見据えた健康増進の取組と様々な相談に関する学習環境を整備するために、がん教育やユースヘルスケアを推進し、生徒の心身の健康づくりを支援する。
- ③食物アレルギー対応委員会と連携し、食物アレルギーによる事故の未然防止に努める。
自校調理の給食の喫食率の向上を目指すとともに、食育の実施による健康作りを推進する。

カ 特別支援教育・自立支援学校運営

- ①SCやYSWや学校特別支援教育心理士と連携を図り、生徒相談委員会を中心とした校内体制を構築し、生徒一人ひとりの悩みの相談を傾聴し、支援を行うことができるようにする。
- ②特別支援委員会を中心とした個別支援計画を作成し、生徒の心身の健康を増進する。
- ③全教員が発達障害に対する理解を深め共有し、合理的配慮を有する生徒の個別の案件に対して、適切かつ丁寧に対応できるようインクルーシブ教育を推進する。
- ④発達課題を有する生徒に対し、通級やコミュニケーションアシスト講座を通して、社会生活における適応能力を培うことが出来るよう支援を行う。

キ 学校運営

- ①きめ細かい指導、生徒の主体的な活動を推進し、生徒及び保護者等の満足度の高い学校づくりに取り組む。
- ②管理運営規程に基づく組織的な学校運営を行い、校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図る。
- ③学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回の調査及び学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、や早期発見、早期対応に取り組む。
- ④体罰や性暴力の未然防止に向け、計画的・組織的な教員研修により体罰・性暴力根絶に向けて全校的に取り組む。
- ⑤学校全体の部活動の活性化を図るため、地域団体と連携し、合同練習や交流試合等を行う。
- ⑥各分掌・学年・委員会等の活性化などについて理解を深め、特に若手教員人材育成に向け、OJTや校内研修の充実を図る。
- ⑦サービス事故未然防止について、クリーンデスクや個人情報管理、体罰や生徒への性的暴力等についてコンプライアンス研修等を実施し、更なる徹底を図る。
- ⑧経営企画室の学校運営への積極的な参加を推進するとともに、学校経営計画及び予算編成指針に基づき、計画的な予算執行、施設・備品管理、学事、環境整備などについて、円滑かつ適切な進行管理を図る。
- ⑨全日制課程と定時制課程が双方の教育活動を尊重するとともに、全定合同の教育活動を実施するなど、引き続き学校の安定化及び活性化を図る。
- ⑩ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科で校内業務の整理と効率化を図る。在校時間の見える化や会議の時間短縮を推奨し、年休や育児・介護休暇等の休暇取得がしやすい雰囲気づくりや同僚性を育むなど、相互に声を掛け合うことが出来る、温かい職場環境づくりを推進する。

5 数値目標

目 標	令和5年度	令和6年度	令和7年度
生徒の授業満足度 98%以上	96.6%	91.0%	96.0%
☆生徒の学校満足度 90%以上	—	91.0%	88.0%
進路決定率 100%以上	100%	100%	100.0%
遅刻回数(延べ人数) R6～ 270名	6.24回	235名	342名
中途退学者 2名以内	1名	0名	1名
☆特別支援委員会・生徒相談実施回数	—	12回	9回
☆地域ボランティア実施人数(延べ)40名	—	—	—
生徒の地域行事等への参加に対する地域の理解 80%	54.1%	44.0%	78.0%
本校地域活動に対する地域の認識 75%	66.7%	44.0%	70.9%
地域の本校生活指導への理解 75%	58.3%	56.0%	70.8%

スクール・ミッション及びスクール・ポリシー

1 スクール・ミッション（存在意義や社会的役割）

「愛情」「良識」「勤勉」を教育目標に掲げ、地域と連携して生徒の能力を伸ばしながら、社会で必要とされる力を着実に身に付ける教育活動を推進します。伝統を尊重しながらも未来を創造するために果敢に挑戦する人材を育成するとともに、地域の期待に応え地域と共に地域に貢献する人材を育成します。

2 スクール・ポリシー（学校の教育方針）

◆アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）

- 1 基本的な学習内容や社会生活で役立つ知識を身に付けようと思っている生徒
- 2 生徒会活動や学校行事等、学年を問わず、みんなと協力しながら学校生活を送ろうと思っている生徒
- 3 学校や社会におけるルールの大切さを理解し、きちんと守って行動できる生徒

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 少人数の落ち着いた環境の中での授業などにより個に応じた手厚い指導を実施する。
- 各教科・科目等において、基礎・基本を徹底するとともに体験的な活動を重視する。
- 地域を題材にして、1年次から組織的・計画的に探究活動を実践する。
- 地域団体と連携したキャリア教育の充実や生徒が和太鼓演奏を行うなど地域の行事に参加し、地域との交流を積極的に実施する。
- 1年次から卒業後の進路を考えた進路指導に力を入れ、誰とでもコミュニケーションできる能力や自分自身を管理する能力など社会で必要とされる力の育成

◆グラデュエーション・ポリシー（高校卒業までに育成を目指す資質・能力に関する方針）

- 学 力（知識及び技能）
言語・計算・情報に関するスキルを身に付け、それを活用することができる基礎学力
文章に書かれた内容を理解し、自分の考えや意見を述べることができる読解力
- 探究力（思考力・判断力・表現力等）
新たな分野に挑戦したり、他者の成長を手助けしたりすることができる自己理解・成長する力
社会の課題解決のため積極的に行動することができる課題解決能力
表現活動を通じて、自分の考えを論理的に伝えることができる表現力
- 社会力（学びに向かう力・人間性等）
集団内で意思疎通を図りながら、集団全体のために貢献できるコミュニケーション力・協働する力
目標に向けて自分でスケジュールを組み、計画的に努力を積み上げることができる基本的な生活習慣
希望する職業に関して身に付けたスキルを活用することができる職業理解